

Vol. IV. Le monde fœdale, par J. Calmette; vol. V. L'In-  
dation du monde moderne, par J. Calmette; Vol. VI. Le  
XVII<sup>e</sup> siècle. (前川貞次郎)

### ○太平洋を繞る國々

小野鐵二 共著  
別技篤彦

現時の緊迫した國際情勢は先づ我々をしてこの世界的危機に登  
場して來る諸國の事情に就いて認識する必要を感ぜしめる。而し  
て我等の關心の一半が太平洋にあることは言ふまでもない。さう  
した意味に於て小野教授・別技文學士の共著になる「太平洋を繞  
る國々」は極めて大きな意義を持つものと考へられる。

敘述は前篇と後篇に分かれたれ、前篇に於ては先づ太平洋が世界  
史の舞臺に登場してくる過程から始まつてその自然と人、交通、  
精神文化、國際關係の展望の順序で述べられてゐる。後篇に於て  
は太平洋を繞る國々の現狀が明かにされて居り、各國に就いてそ  
の自然、人種、歴史から政治状態、經濟事情に至る迄極めて要領  
よく簡単に纏められてゐる。

本書の特色の一としてはそれが極めてすら／＼と且興味深く書  
かれてゐて非常に読み易いことが擧げられる。筆者も亦本書に引  
きずられて一氣に最後まで讀んだ一人である。殊に無味乾燥であ  
るべき統計が文章の中に組入れられ乍ら、少しもさうした感じを  
抱かせられない。

本書が極めて解り易く、且要領よく纏められてゐることは太平

洋及びそれを繞る國々に就いての常識を一般人に與へると云ふ本  
書の内容を充分に達せしめてゐる。日本の軍縮脱退と共に世界各  
國の關心は太平洋に集まつてゐる。この際我々日本人が太平洋を  
繞る國々の現狀を知つて置くことは最も必要であらう。その意味  
に於て本書は専門家にのみでなく、又一般の人々にも趣味と實益  
を兼ねたものとして推賞出来る。(四六版七一四頁、定價圓八  
拾錢 章華社發行) (安藤)

### ○考古學論叢(第一輯)

考古學研究會

考古學の分野に於ける熾烈なる研究者によつて守り育てらるべ  
き専門雜誌としてあらはれた本論叢は、その題簽を濱田先生より  
與へられ、そしてその發展性を將來に持つものとしての感を深  
からしめる。今第一輯の内容を示して來るべき第二輯以下の内容  
の發展を期待する。

### 内 容

- 一、美術史と考古學 長廣 敏雄
  - 二、西南日本繩文土器の研究 三森 定男
  - 三、廢光明山寺の研究 角田 文衛
  - 四、古代支那動物模樣特に三代古銅器模樣的溯  
源とその意義 中村 清兄
  - 五、ニコルスキー「先史學方法論」 彌津正志譯
- (季刊、菊版一五〇頁、年金參圓)